

2. 大宰府跡の概要

2-1 大宰府跡の自然・歴史・社会環境

(1) 自然環境

1) 位置

本史跡は、日本の九州地方北部の福岡県の内陸部にあたる太宰府市に所在する史跡です。政庁跡が本市のほぼ中心に位置し、その約3km圏に宝満山を除く大宰府関連史跡が位置しています。

政庁地区は、^{しおうじやま}四王寺山の南麓に位置し、大宰府学校院跡、観世音寺境内及び子院跡とは隣接しています。市行政区では、観世音寺区、坂本区に含まれます。

客館地区は政庁地区の南約1kmに位置し、市行政区では芝原区に含まれます。

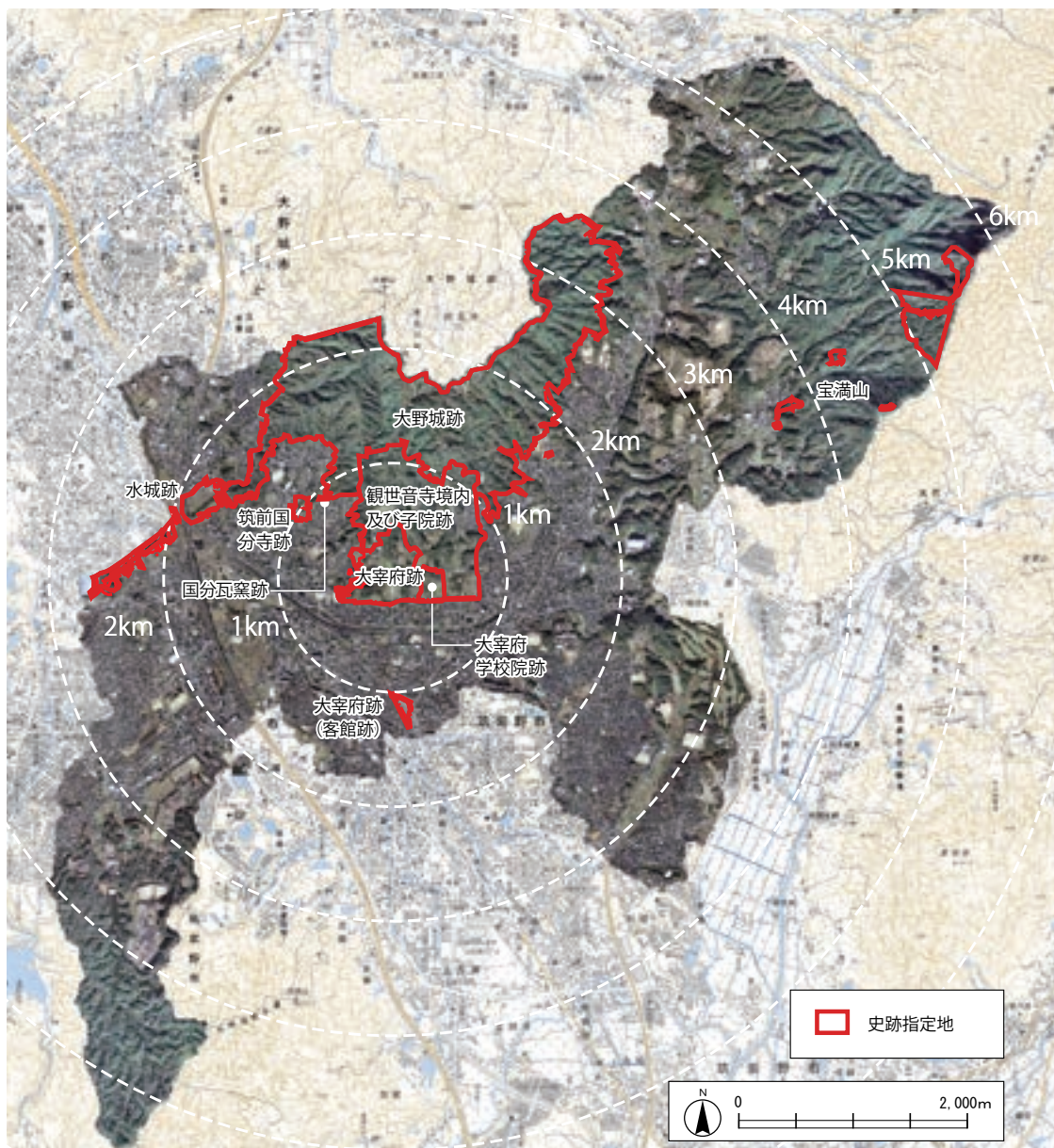


図2-1：大宰府跡の位置

／国土地理院発行1/2.5万地形図「福岡南部」「太宰府」「不入道」「二日市」を使用

2) 地形

政庁地区は、標高30～80mと起伏が豊かなところですが、四王寺山の麓に政庁跡が位置し、その東と西にそれぞれ標高50～60m程度の丘陵が控えています。東に位置する丘陵は、月山^{つきやま}と呼ばれています。西には小字名から蔵司^{くらつかさ}と呼ばれる地区があり、その中に丘陵があります。

客館地区は、標高30～40mのなだらかな平地に位置しています。当時、政庁と客館は南北に延びる朱雀大路^{すざくおおじ}で結ばれていました。

丘陵裾の地形を改変し、三方を山に囲まれた空間に政庁を置き、南側には平野が広く広がる等古代都城を設置するにふさわしい好条件がそろった地形と言えます。

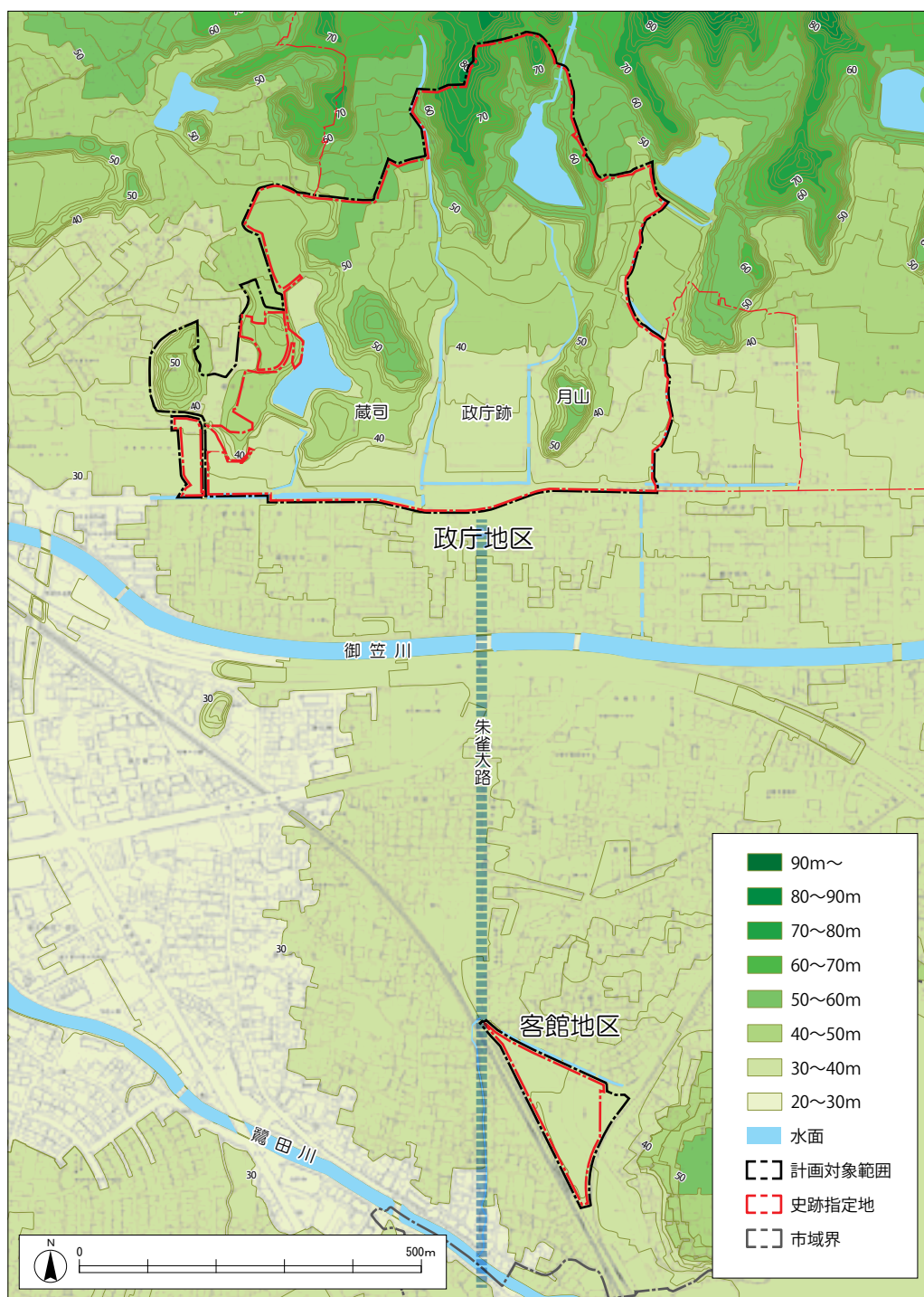


図2-2：標高分布／『平成24（2012）年都市計画基礎調査』 一部加筆

3) 地質

地質は、早良花崗岩^{さわらかこうがん}、沖積地堆積地^{されき}(砂礫及び粘土)、新期段丘構成層(砂礫及びシルト)に分けられます。

政庁地区は、四王寺山から連なる尾根筋の丘陵が早良花崗岩、谷筋が新期段丘構成層(砂礫及びシルト)と沖積地堆積地(砂礫及び粘土)で構成され、比較的安定した地盤で構成されています。但し、丘陵の花崗岩類は風化によって土壌化しており、急な傾斜地等においては大雨の際に地崩れ等も発生しています。

客館地区は、新期段丘構成層(砂礫及びシルト)にあり、安定した地盤の上に位置しています。

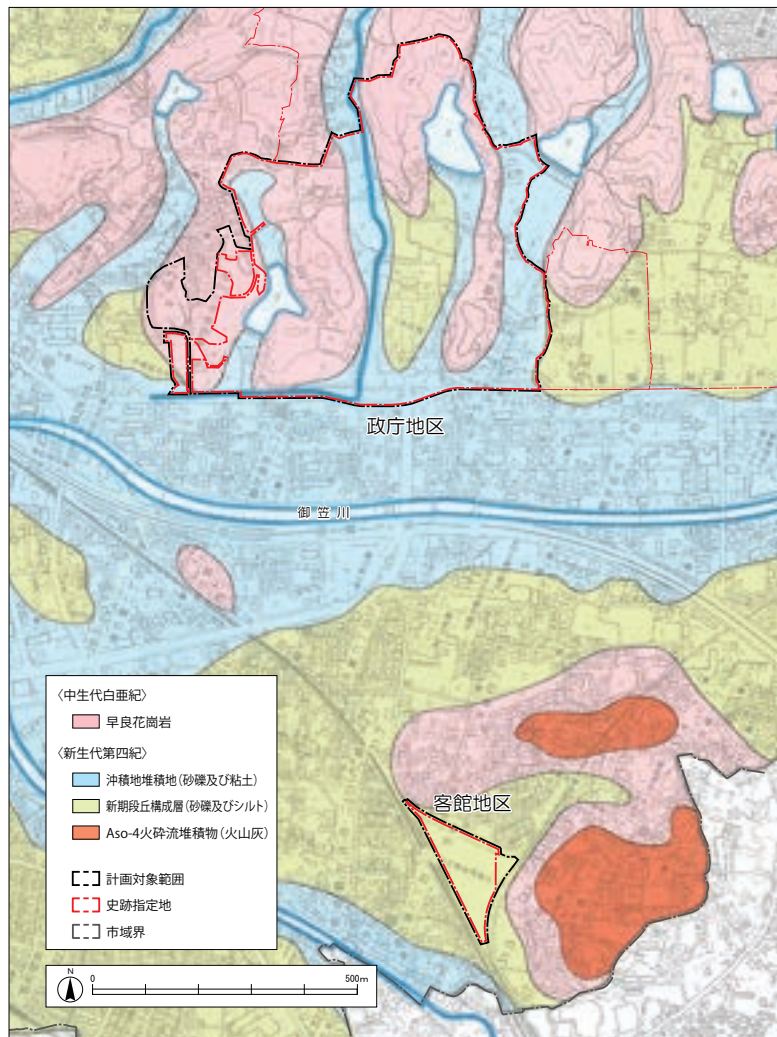


図2-3：地質分類／『太宰府市環境資料編』付図3太宰府市地質図 一部加筆

表2-1：地質の概要

早良花崗岩	中生代白亜紀後期の約9,300万年前に地下のマグマが固結してできたものです。市域を構成する硬い岩盤の殆どは花崗岩類が占めています。
沖積地堆積地 (砂礫及び粘土)	現河川の流域の谷底平野の平坦面(沖積面)を占める沖積地の堆積物であり、市内においては過去1万年以前の第四期完新世に現在の河川によって河谷が埋積されて形成されたごく若い堆積物であり、下流に向かって厚くなります。
新期段丘構成層 (砂礫及びシルト)	御笠川沿いの観世音寺付近、鷲田川沿いの筑紫野市二日市から上古賀にかけての、いわゆる「二日市低地帯」等を構成し、これらは沖積面より一段高い平坦面を形成しています。御笠川中流以下と鷲田川流域の新期段丘構成層は平坦な低段丘を形成し、細礫や小礫からなります。礫種は花崗岩類・脈石英が多く、風化花崗岩を覆っています。
Aso-4火砕流堆積物	阿蘇カルデラに由来する火山灰です。阿蘇カルデラを形成した大噴火は過去4回生じたことが判明しており、古い方から阿蘇1、阿蘇2、阿蘇3、阿蘇4と名付けられています。

4) 水系

政庁地区では御笠川に、客館地区では鷺田川さぎたがわに合流する2つの水系に分けられます。

政庁地区の水系は、四王寺山を集水域とし、一部ため池から政庁跡沿いの水路を経て、主要地方道筑紫野太宰府線（通称：政庁通り）沿いを流れて、御笠川に注いでいます。

生活雑排水の流入が少ないこともあり、ミナミメダカ、ミナミヌマエビ、ドジョウ、ゲンジボタル等が生息しています。また、政庁跡の前面外濠（以下、濠）には4～5月に白い花を咲かせる福岡県絶滅危惧種「ミツガシワ」が近隣から移植されて根付いており、希少な水生生物の生息環境が維持されています。

客館地区には、史跡指定地内を流れる水路はありません。東側の丘陵部から西側に流れる水路が史跡指定地の北側に位置し、鷺田川に注いでいます。

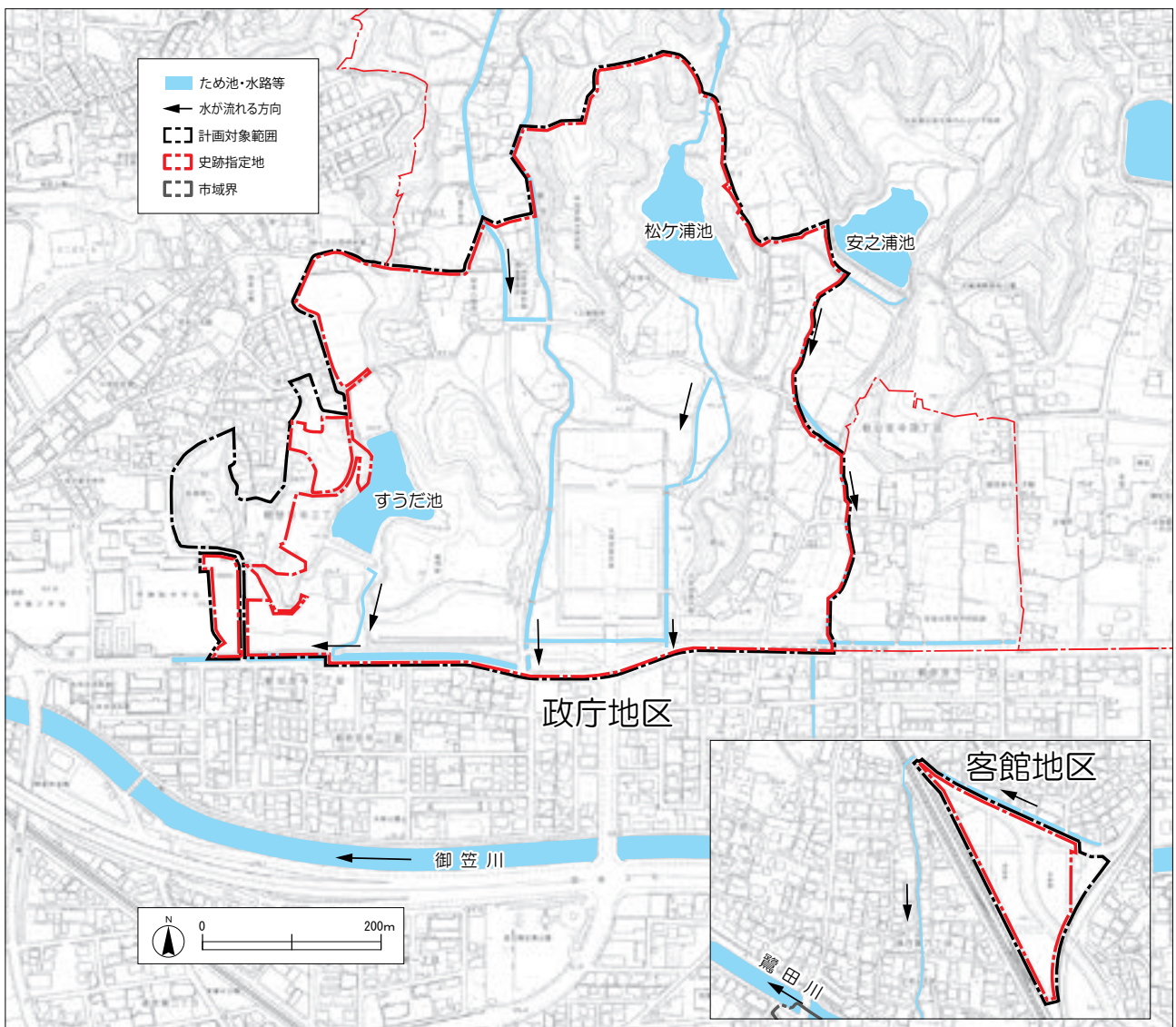


図2-4：水系／『平成24（2012）年都市計画基礎調査』／太宰府市環境資料編付図8太宰府市水利図 一部加筆

水路の殆どは石積やコンクリートで整備済みとなっていますが、一部すうだ池と松ヶ浦池の下流域に未整備の流路が存在し、流水によって護岸が徐々に削られています。石積やコンクリートで整備された箇所であっても、大雨の際の崩落が記録されています。

5) 植生

現在の植生は古代大宰府の植生とは大きく異なります。また、豊かな緑が残される政庁地区に対して、客館地区は西鉄二日市操車場として利用され、自然の植生は残されていません。政庁地区の植生について見ていくと、大部分は常緑広葉樹です。大きく広葉樹林、モウソウチク優占の広葉樹林、マダケ優占の広葉樹林、モウソウチク林、植栽林に分けられます。

広葉樹林は松ヶ浦池や、すうだ池の周辺、及び月山地区、蔵司地区の北側等に分布しています。その周囲には、モウソウチク優占の常緑広葉樹林やマダケ優占の広葉樹林、モウソウチク林が点在しています。

植栽木は政庁跡周辺にウメ、ソメイヨシノ、ヤマモミジ等があり、春の花見や秋の紅葉を目当てに訪れる人々も数多く存在します。



写2-1: 月山地区の広葉樹林

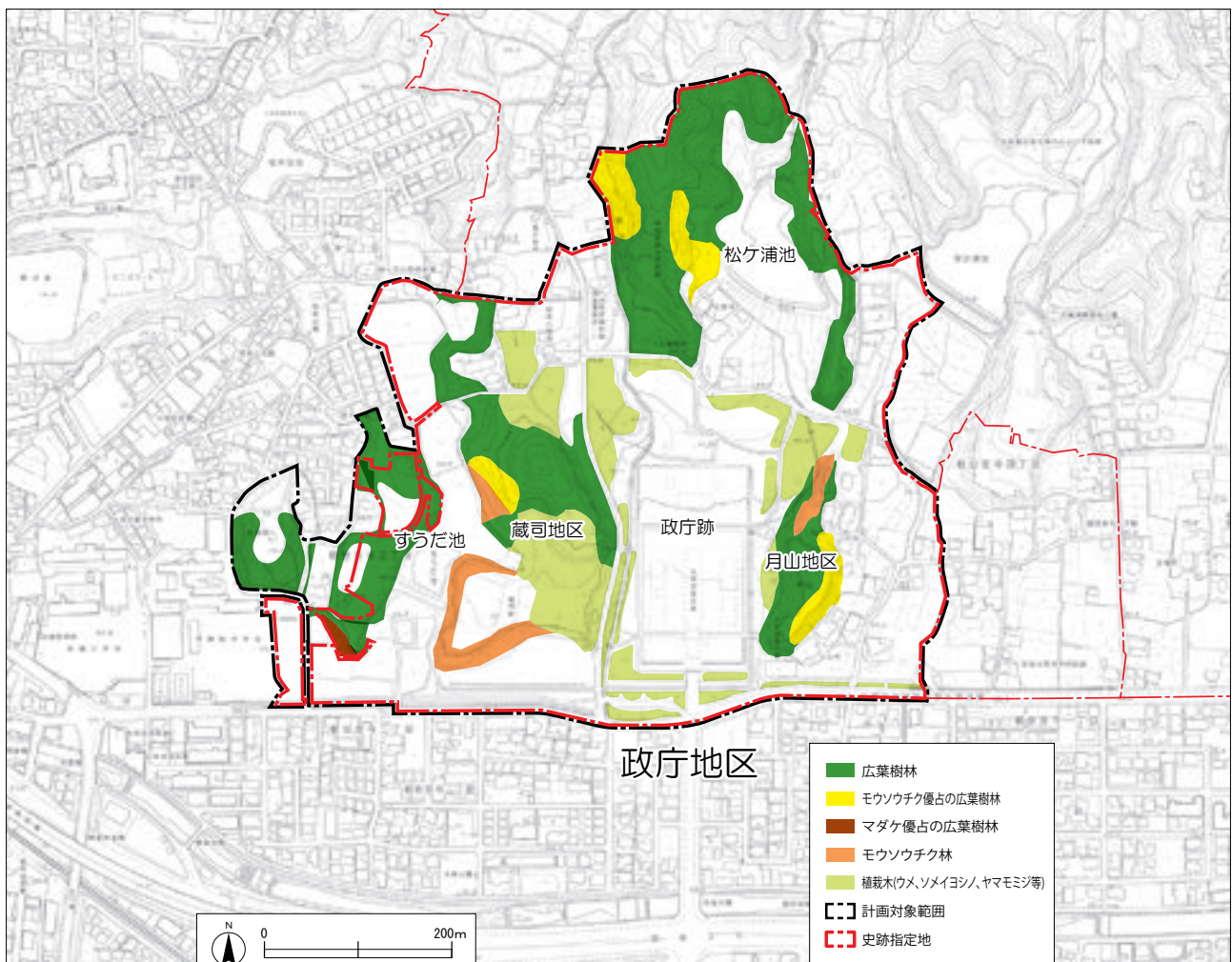


図2-5: 現況植生

／『四王寺山周辺環境整備計画策定業務報告書（平成24（2012）年1月）』現況植生図 一部加筆

6) 動物

西鉄二日市操車場として開発されていた客館地区に対して、豊かな自然環境が残される政庁地区は様々な動物の生息地にもなっています。

政庁地区が位置する四王寺山一帯に生息する動物については、市内で生きものを通した環境教育に取り組んでいる市民団体「まほろば自然学校／設立平成17(2005)年8月」により『太宰府市民の森いきもの図鑑 まほろば自然学校』にまとめられています。

「太宰府市民の森」に生息する動物／出典：『太宰府市民の森いきもの図鑑 まほろば自然学校』

- 【哺乳類】 タヌキ、イタチ類、イノシシ、ニホンノウサギ、アナグマ、カヤネズミ、コウベモグラ等
- 【爬虫類】 ニホンカナヘビ、ニホントカゲ、シマヘビ、ヤマカガシ、アオダイショウ等
- 【両生類】 ヌマガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、ニホンヒキガエル、アカハライモリ、ウシガエル等
- 【鳥類】 コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、キビタキ、サンコウチョウ、ハイタカ、ノスリ、フクロウ、サギ類、カモ類、カワセミ等
- 【昆虫類】 オバボタル、ゲンジボタル等

政庁地区では、鳥獣の保護の見地から「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」28条に基づき「福岡県鳥獣保護区」に指定され、狩猟が禁止されています。

多様な動物の生息が確認される一方、イノシシをはじめとする鳥獣被害が問題になっています。イノシシは政庁地区でも目撃され、農地の周りにはイノシシの侵入防止柵が巡らされています。地面を掘り起こした跡は史跡指定地の中でも数多く発見されており、整備地の表土が掘り起こされて、復元整備したものが毀損されている箇所もあります。歩行者への被害等も危惧されています。また、蔵司前かんが面官衙跡、月山東官衙跡ではモグラが穴を多く開けており、イノシシと同様に、遺跡の保存に影響がでています。農作物の被害軽減を目的とした有害駆除について、市では、『太宰府市・那珂川市広域鳥獣被害防止計画』を策定し、猟友会に箱罠を用いた駆除を依頼しています。一時は本市内で年間約300頭のイノシシが駆除されています。しかし、目撃情報や被害報告は減少していません。

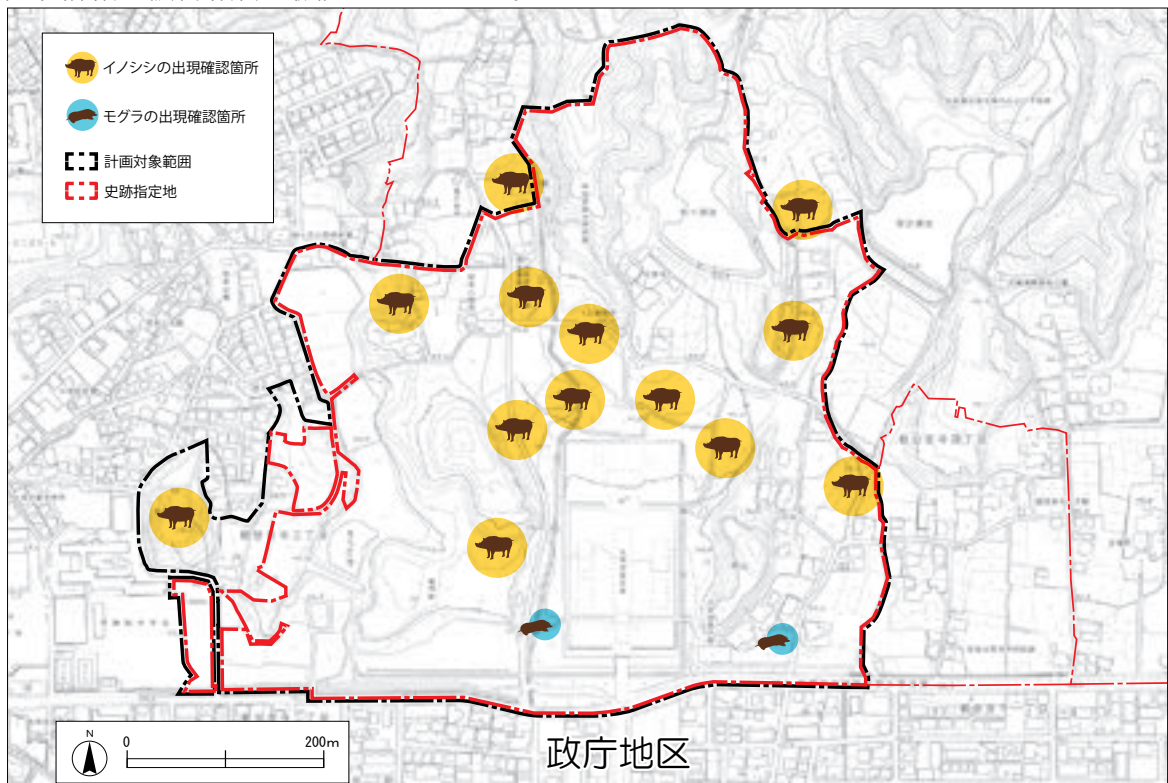


図2-6：イノシシ・モグラの出現確認箇所